

刊夕日六十二月六



一昨日日曜 平日日曜 郵税十五錢 第二種 寄附金 一、四十錢 寄附金 一、四十錢 發行所 平町大町二丁目 新いむき新聞社

座講識常 マシヤは改此主のこと 西洋の一般が基督教の 東洋下にあつたので メシヤと云へば耶穌と 解されたが今日では何 れの方面でも別拓指導 公益を計り謙性と愛の 精神に生きる人を云ふ

御齋所街道の縣 工事着手 石城郡上野野村の石畑地内縣 道御齋所街道のカーブ及び句 配緩和並に路巾擴張の縣工事 は工費六千圓で昨二十五日着 工した

販賣方法を改善か 度量衡並に計量器 縣を一丸とする同商組合創設 商業組合法に則して 本縣度量衡商組合並に計量器 器關係では鈴木堅助氏を訪問 商組合では豫て計量器中であ つた商業組合法による組合の 創設を實現せしむべく縣下各 郡部組合主幹部と打合せされ たるが縣度量衡検査所長丸山 改められる意圖が多分に含む もの、如くである

平町在郷軍人の 模範動員 平町の在郷軍人は豫後備を合 せて準士官以上二百三名（本 籍者）下士以下八百四十四名 があるが右に對して模範動員を 施行の旨で今二十六日午後七 時から警察關係並に役場及び 軍人分會役員と方法日取等を 打合はせる筈であるが模範動 員は多分來月中旬以降になる であらう

乳劑の共同購入 平町では例年の通り石油乳劑 の共同購入をなす筈で町内各 區から來七月五日までに希望 數量の申込みを集めてあるが 縣衛生課の製品一斗八、二、五 圓である

さざれ會の七 月稽古 平町實生流同好の磐城さざれ 會は來月一日午後二時から能 樂師佐野殿氏を迎ひて鐵道ク ラブに稽古會を催されるが曲 目左の如くである

平町會特戶の査定 原案修正二割減か 減額されたもの一八七名

平町の特別戸數削減課は町議 原案を漸次認められて來たの の全委員で下調査中である が一般調査は漸く終りに迎ふ き今二十六日三十圓以上の賦 課に對する特別委員を各派か ら選んだ同調査も豫定通りの 進行を見込まれ來る二十八日 午後一時から本會議に附され る筈である原案に對する修正 は委員長の報告を見るまで詳 細でないが昨年の修正三十圓 未満の増額修正一七九圓減額 修正二四四、三十圓以上の増 額四五圓減額四三に比較し町 當局が慎重な調査の上に保る 均額減額二九二（以上）

石城の小麥と茶種 本年の産額九萬圓 小麥一萬俵茶種四千俵の收穫 縣販聯と手を組んで出荷

縣販聯が主催せる小麥、茶種 同産高は茶種に於て作付面 積二百町歩收穫見込み四千俵 である七月二十五日第一回次 會は去る二十三日平町マルト モ樓上に石城郡一回、双葉郡 南部の關係者を招集し販聯か ら大井徳平氏その他出張打合 せを遂げて昨二十五日は双葉 郡宮岡町に同様の協議をなす 所あつたが石城郡に於ける茶 種と小麥は豫て郡農協局に 計議されてゐる其れを取聯と 相携へて行はれることになつ

夏季の衛生に注意 現在患者一名の平町に於て 嚴守すべき數項を示して

平町では衛生の諸設備を年次 改善されて傳染病を漸く減し 本年に入りて腸チフス十三名 赤痢四名、猩紅熱五名、疫病 二名、實扶的利亞十一名を出 だしたるも何れも軽く目下傳 染病院に在るもの一名に止ま り之れも近く限院されるので 日ならず閉院されるのを喜ば れてゐるが梅雨後の向暑氣は 各種傳染病の猛威をふるはれ 季節なので此の際豫防上に 一層の注意を拂はれるやう町 長から町内各戸に嚴守すべき 左記を示した

平町會社では石城郡永戸村 大字下永井地内に於て小玉川 （日社第一發電所貯水池上流） に第二發電所を計議されてゐ たが愈々工費五十萬圓の餘算 設計を以て來る七月八日午前 十時超正式を舉行し直ちに着 工の筈であるが同所發電能力 は三千五百キロ工事は遠夜兼 行を以て明年二月までに竣功 の豫定である

悲觀された旅客收入 平驛(月)でまた増収 遠距離旅行が殖えた、め

平驛に於ける今六月の旅客收 入は近郷が繁榮期である上に たが昨二十五日までの出札は 兩億餘の影響で昨年同期より 二萬三千二百八十四人この收

販賣方法を改善か 度量衡並に計量器 縣を一丸とする同商組合創設 商業組合法に則して

本縣度量衡商組合並に計量器 器關係では鈴木堅助氏を訪問 商組合では豫て計量器中であ つた商業組合法による組合の 創設を實現せしむべく縣下各 郡部組合主幹部と打合せされ たるが縣度量衡検査所長丸山 改められる意圖が多分に含む もの、如くである

平驛で荷主と懇談 來る二十八日驛の樓上に於て 蔬菜と桃の出荷に關する打合

平驛では來る二十八日午後一 時から同驛樓上に野菜及び桃 又は輸送時間短縮等により遠 距離に發送の可能性なきや否 果輸送の荷主懇談會を開き石 城郡農會の青木技師、柴田技 師、内田書記並に平町同業團 からの十二名、果樹組合長五名 その他六名を會合して桃の輸 送方についての希望及び小運 送方についての希望を述べた

川魚の習性と 其漁法

石田啓中教諭 之れ等はなか／＼困難な事柄 でありまして又後で述べま する漁法の根本になりま ず是非練習をして貰はねばな りません

四倉市場の 春蘭値

白蘭二二圓九〇錢 黃蘭二二圓三〇錢 四倉市場に於ける昨二十五 日は白蘭二千六百六圓二百九 十、黃蘭二千二百圓合計二千八 百四十八圓二百九十圓の出荷 相場は左記の如くであつた

乳劑の共同購入

平町では例年の通り石油乳劑 の共同購入をなす筈で町内各 區から來七月五日までに希望 數量の申込みを集めてあるが 縣衛生課の製品一斗八、二、五 圓である

さざれ會の七 月稽古

平町實生流同好の磐城さざれ 會は來月一日午後二時から能 樂師佐野殿氏を迎ひて鐵道ク ラブに稽古會を催されるが曲 目左の如くである

庶民生活

消費経済の合理化(五)

内務省社会局
食物についても、住居についても、同じ問題がありますけれども、茲には斯くの如き細目に入るとは避けまして、大体的概念を申してゐるのであることを、よく御諒承を願ひたいのであります。また自由費用についても同様でありまして、子供が小學校へ通ふについて必要な文具の費用の如きは、今日の文明の程度では衣食住と等しく必要費用であるかも知れません。新聞紙を讀まない家庭も殆んどありませんから、之れまた燈火薪炭の費用と同様に、生活必要費と申した方が適當であるかも知れません。また貯金や保険の如きは、費用と名づけるのが不適當であるかも知れませんが、家計簿を整理してその支出の項目を列記する場合には一個の項目となりますから、便宜上之れを費用の中に入れて置く次第であります。

擬て所得全体の内で、何割までが必要費用に當てられ、何割までが自由費用にあてられるかを調査しますと「所得額が多ければ必要費用の割合が少く、自由費用にあてられる割合が多い」のであります。この事は常に常識から考へても明かでありまして、之れを統計的調査によつて明瞭にしたのはドイツの統計學者エンゲル氏であります。家計調査、即ち一家の生計の統計的調査についてエンゲルの法

則と稱せられるものがありまして、それは後に申上げることと致しまして、兎に角、此所に申上げた事だけを考へましても、人々が勤勉に働いて一家の収入を多くすれば、生活の程度も向上し、自由費用にあてられる部分の割合も次第に多くなり、人々は幸福なる生活を営み得るのでありますから、勤勉努力の大切なことが證明されるのであります。

パラソルと日傘

例年御定評を頂く当店特選の

優秀な新柄を豊富に取り揃へて

ツルヤ 電話一四〇

淋病最新薬
美神淋薬
一週分 八、〇〇〇
二週分 一四、〇〇〇
代理店 山野邊藥局

債券公債両替金融

多田井質店

平町大工町 電話五九一

開業

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、鑲齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科、
二、口腔外科
一、レントゲン科

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠
平町大工町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 命は **三三三屋** 平町 田町

店主が店員	を連れて行	か	正	正	正
		れ	し	し	し
		る	い	い	い
			酒	喫	食
			場	茶	堂

平町田町 レストランサロン 電話三六二

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

高久病院

平町田町 電話五二三番
院長 醫學士 高久 忠

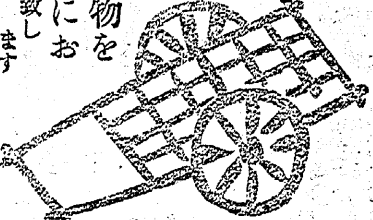
スペインG・H・N元詰 ゴルフポートワイン

甘味葡萄酒 1・10

御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です

(平2) 西村屋藥舗 (電3)

貸手車



新規物を格安にお譲り致します
平町大町若松醫院隣

煙突は **朝日** 煙突

石綿セメント製 朝日煙突

絶対的によい煙突
はせあがり
くやけあがり
くさりあがり
腐敗的で
臭い煙突

益屋商店

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店 關内正一
平町二丁目 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

石炭
コークス
炭

平町郵便局通り
水野石炭店
電話二九八番

警名城産特賣所

御土産物には郷
石城みやげ
七濱の生産品
地元産の果實
平みやげ
名菓各種
土の名産が第一

前驛町平

入院 應需

明雲堂眼科醫院
平驛前 電話六六九番

新設、電話二二二番
何卒御利用の程を

平町紺屋町一

上原家政婦會
(産婆) 上原通子

自家醬油製造

諸原料(種麹菌)大勉強
特約販賣 山野邊藥局
平町五丁目